小動物臨床部会 平成 30 年度定時総会・放射線教育訓練の開催

小動物臨床部会の定時総会および放射線教育訓練を平成 30 年 4 月 15 日（日）新潟ユニゾンプラザで開催しました。定時総会出席者・放射線教育訓練の出席者はともに 30 名でした。

定時総会は鈴木正芳副部会長の司会進行で、長谷川眞部会長の挨拶の後議事に入り、第 1 号議案 平成 29 年度事業報告並びに収支決算について、第 2 号議案 平成 30 年度事業計画(案)並びに収支予算(案)について、第 3 号議案 一般社団法人日本小動物獣医師会の団体会員の継続又は離脱についての議題について上程されました。第 1 号議案・第 2 号議案は原案どおり承認され、第 3 号議案については、一般社団法人日本小動物獣医師会の団体会員を継続することで承認されました。

定時総会終了後、放射線教育訓練が開催され、昨年に続き新潟動物画像診断センター院長の坂大智洋先生から『レントゲン機器の取り扱いと撮影方法』についての講習会が開催され、終了後は受講証明書が発行されました。

放射線教育訓練の様子

平成 30 年度 定時総会 特別講演の開催

平成 30 年 5 月 30 日(水)ＡＮＡクラウンプラザホテル新潟において、平成 30 年度 定時総会終了後、特別講演として首都大学東京・名誉教授、放送大学・客員教授、アニコムホールディングス株式会社・顧問医師の星　旦二先生から「ペットとの暮らしが健康寿命を延ばす」と題するご講演をいただきました。

講演では、公衆衛生のエキスパートとして多摩市をはじめ全国地方自治体などと共働し、寿命とさまざまなファクターとの関連を大規模調査に基づく「健康寿命」に関する研究成果について解りやすく解説していただきました。

先生は「健康長寿」の必要な要素としては、①美味しく食べて小肥り、②コレステロールが少し高め、③前向きに生きようとする力の３つが挙げられること（①、②は予想外に感じられた)。高齢者の就労率の高い県は『ピンピンコロリの高齢者（寿命が尽きるまで元気で健康的な生活を送る)』が多く、前向きで自立度の高い高齢者の暮らしこそが、健康長寿のポイントと指摘された。

また、住居環境では、断熱、結露予防及び有機溶剤不使用建材で建築された寒さ改善の暖かい住宅が循環器疾患予防につながること、「高齢者が自立し、自分らしい生活を送る主役となるには、例えば『嫁に財布を渡さない』、『1 年に１度は新しい場所へ旅行してみる』等、高齢者自身が心身ともに健やかであることが必要と強調された。

後半では、ペットと人間の健康度維持の関連について人の健康は、動物の健康にも依存しており、特に女性でその影響力が大きいこと、又、ペットの健康のためには、飼い主が健康である必要があり、特に女性の飼い主が健康であることの方が、男性に比べてペットの健康維持に大きく寄与していると解りやすく解説された。

講演される首都大学東京・名誉教授の 星 旦二先生

第 14 回県民公開講座
平成 30 年度感染症予防衛生講習会開催報告

平成３０年度感染症予防衛生講習会が６月２０日（水）午後１時３０分から、新潟市民プラザ（NEXT２１）で開催されました。この講習会は平成１７年から開催しており、今年で１４回目となります。（一社）新潟県ペストコントロール協会が主催、新潟県、新潟市の共催、（公社）新潟県獣医師会の協賛で、県、市町村、教育関係、福祉施設、食品事業者のほか、一般県民に広く受講していただくため、県民公開講座として開催しています。

講演Ⅰでは、（一財）自然環境研究センター、研究主幹の米田久美子先生から「高病原性鳥インフルエンザと野生動物」と題して御講演をいただきました。

「高病原性鳥インフルエンザ（HPAI：highly pathogenic avian influenza）」は、ニワトリへの病原性が強く致死率が高い、鳥インフルエンザウイルスによる感染症で、H5 と H7 亜型の A 型インフルエンザウイルスが知られています。以前は、HPAI が流行しても短期間で終息していましたが、１９９６年に中国で H5N1 亜型のウイルスが発見され、世界中に広がって以降、世界的流行が持続しています。また、H5N1 と H7N9 亜型の A 型インフルエンザは、人への感染・死亡事例もアジアや中東などで多数発生しており、感染症法では２類感染症に分類され、人を診察した医師はもちろん、鳥類を診察した獣医師にも保健所への届出が義務づけられています。

日本国内では、２００４年１月に養鶏場で H5N1 亜型による HPAI が発生し、その後は冬季を中心に、繰り返し発生しています。野鳥がウイルスを運んでいると考えられていますが、どの鳥がどのルートで運ぶのかは解明されていません。また、野鳥が持つウイルスを鶏舎に運ぶものとしては、ハエなどの衛生害虫、スズメやムクドリなど小型の鳥類、ネズミなど小型のほ乳類が疑われていますが、決め手になる確証は得られていません。HPAI ウイルスは遺伝子再集合により進化を続け、野鳥の間でも広がっており、現在のところ飼養衛生管理を徹底し、自衛するしかないのが現状とのことであり、鶏舎周辺の草刈りや清掃により、野生動物が近づきにくい環境作りが大切だと感じました。

講演Ⅱでは、（一社）新潟県環境衛生中央研究所理事、医学博士の西川眞先生から、「犠牲者を作り出さない感染症予防対策」と題して御講演をいただきました。同じ場所でスリップ事故を起こしたバスと軽乗用車の事例を引き合いに、「車種も経験も違うドライバーが同じ場所で事故を起こすには理由がある」、「本人の不注意で済ませて犯人を作り上げても、また事故は繰り返す」とのお話がありました。感染症や食中毒が発生した時、その原因究明の段階で、ストーリーを作ると説明しやすく納得が得られやすいことから、つい何かを犯人にしたてたくなる。そのようなことをしても隠蔽の温床になったり、結局事故を繰り返すだけで解決にならないとのことでした。ノロウイルスの感染者が悪者にされることなく、きちんと保護してあげられる環境づくりが、感染拡大や事故防止につながるのだと改めて感じました。

講演される米田久美子先生

手洗いを推奨し、マニュアルに書いても、きちんと行われることを確認するのは難しく、手洗い洗剤が毎日きちんと「減っている」ことをモニタリングすれば、手洗いの検証になるとの話が印象的でした。あまりに面倒なマニュアルでは誰も実施しないもので、負担をかけないように環境整備し、実際に作業できるのか確認し、それを確実に実施させることが重要とのご意見でした。

◇　平成 30 年度 産業動物部会定時総会・講習会の開催

平成 30 年 7 月 17 日（火）新潟市万代市民会館において定時総会、講習会が開催されました。

定時総会は、会員１９名が出席し、滞りなく、全議案が成立しました。

定時総会終了後、講習会が行われ、今年度は「牛乳房炎の診断と治療の考え方」と題し、麻布大学獣医学部獣医学科 衛生学第一研究室 准教授 河合一洋先生より御講演をいただきました。

近年、抗菌性物質の適正使用と慎重使用について話題となっており、河合先生が農林水産省の事業で作成された「牛乳房炎抗菌剤治療ガイドブック」の内容についての紹介があり、また、国内の乳房炎治療の実態や薬剤耐性状況の調査結果について説明がありました。その後、原因菌ごとの乳房炎の解説、治療法の紹介をしていただきました。

今回の御講演を拝聴して、牛乳房炎において耐性菌出現抑止には「原因菌分離陰性乳房炎に抗生物質を使用しないこと」「乳房炎治療前には原因菌同定と感受性検査が必要なこと」「耐性菌を作り出さない治療法をおこなうこと」「乳房炎ワクチンの普及を促し抗菌剤使用量を減らすこと」が重要であると改めて認識できました。

産業動物部会では、講習会、セミナーを通じて新しい知見、手法を学習し、また会員相互の情報交換をおこない、畜産業の皆様が安心・安全な畜産物生産ができるよう活動しています。そのためには、皆様の御支援、御参加が必要です。是非とも、皆様の産業動物部会への御参加お待ちしております。

講演される河合一洋先生

受講の様子

平成 30 年度 第 1 回小動物臨床部会講習会の開催

平成 30 年 7 月 29 日(日)新潟東映ホテルで平成 30 年度第 1 回講習会を開催しました。

長谷川眞部会長と宮川保会長理事の挨拶の後、鈴木正芳副部会長の司会進行で講演に入りました。

講師は、日本獣医生命科学大学獣医学部　獣医放射線学教室の長谷川大輔准教授で、「日常遭遇しやすい脳神経疾患」と題して講演をいただきました。

参加登録者 54 名(部会員 43 名、部会員外 11 名)、当日参加者は 50 名(部会員 39 名、部会員外 11 名)でした。

講演内容は、来院頻度の高い前庭疾患などについて、動画や MRI 画像を用いてわかりやすく解説して頂き、日々の診療にとても役立つものでした。

屋外は 36 度を超える猛暑の日でしたが、参加者はみな熱心に講演を聞き、その後は活発な質疑が行われました。

今後とも小動物臨床部会の事業にご協力をよろしくお願いいたします。

講演される長谷川大輔先生

受講の様子

◇ 平成 30 年度日本獣医師会 小動物臨床講習会（中部地区）の開催

平成 30 年度公衆衛部会通常総会 及び 小動物臨床部会第 2 回講習会・公衆衛部会研修会 合同講習会

平成 30 年度公衆衛生部会通常総会を平成 30 年 10 月 21 日（日）に新潟東映ホテルで開催し、会員 20 名が出席しました。伊藤部会長の挨拶の後、議事に入り、平成 29 年度事業経過報告及び決算報告、役員選任に係る規則改正について審議され、原案通り承認されました。

総会後の研修会は、公益社団法人日本獣医師会主催の小動物臨床講習会と合同で開催され、公衆衛生部会員の他、小動物臨床部会員等も含めて 62 名の出席がありました。

岐阜大学応用生命科学部獣医病理学研究室教授の栁井徳磨先生から「動物の遺体における獣医法医学的研究の必要性について」ご講演をいただきました。栁井先生は獣医大学における動物法医学教育の確立を目指し、岐阜大学と近隣自治体との官学連携、ならびにアジアにおける獣医法医学的研究の地域連携を推進するなど、多方面でご尽力されています。

講演ではまず、「獣医法医学」という概念すら定まっていない現状について説明がありました。医学界に比べ 100 年以上の遅れが指摘される中、様々な事例における死因解明の症例解説は、獣医領域においても、あらゆる場面で法医学的アプローチが必要とされていることを痛感させられる内容でした。

例えば、動物愛護法の改正で罰則が強化されたことを背景とし、動物虐待やネグレクトを証明するため、警察から依頼される法医学的解剖の件数は年々増加傾向にあるとのことです。さらに、野生動物の法医学研究を進めることで人獣共通感染症や中毒のモニターに役立つことや、公衆衛生関連以外では、動物園で飼育される希少動物が死亡した場合、高額な保険金の支払いに関与する責任の所在の明確化のため、死因究明は非常に重要であることが紹介されました。

小動物臨床の現場においても、モンスターオーナーの出現などにより、法医学的解剖が必要となる場面も今後増えることが予想されるため、小動物臨床部会員からも「非常に興味深い内容だった」という感想が聞かれ、大変有意義な研修会となりました。

受講の様子

講演される栁井徳磨先生

平成 30 年度狂犬病予防注射業務関係者研修会の開催

平成 30 年度狂犬病予防注射業務研修会が、11 月 9 日新潟県自治会館で開催され、関係者が 166 名参加した。最初に宮川保県獣会長の開会挨拶があり、狂犬病注射等数が減少するなか、注射実施獣医師の不注意な行いが与える一般市民への影響に対して苦言を呈され、また担当獣医師がよりいっそう動物や飼い主に対して優しい対応をとるようにと注意喚起が行われた。次に阿部健博様新潟県福祉保健部生活衛生課課長の挨拶を頂いた。その後、今年は講演が先に行われ、講師は昨年と同様に大阪府獣医師会長佐伯潤様（くずのは動物病院院長）から「狂犬病は怖い？！」という題で行われた。2006 年に起こったヒトでの輸入症例が時系列で報告され、医療機関での対応などが細かく説明された。また犬の症例、猫の症例についても症状を中心に細かく講演された。研修会後半の行政説明では、新潟県生活衛生課の遠山潤副参事から「ヒトとペットの災害対策」という題で講演があった。過去の災害時に新潟県で行われた愛玩動物の保護対応と今後の同行避難を念頭に置いた避難対策が述べられた。また災害時に新潟県、新潟市、獣医師会、動物愛護協会からなる救済本部が立ち上がったときにそれぞれの団体の担う役割も述べられた。新潟県の狂犬病発症時対応指針も現在作成中で今年度中には完成する見通しと最後に報告された。閉会の挨拶は、樺沢與志圀県獣副会長理事によって行われ今年の研修会は終了した。

講演される佐伯 潤 先生

行政説明　遠山潤副参事

◇平成 30 年度産業動物部会セミナーの開催

11 月 19 日(月)に、平成 30 年度産業動物部会セミナーが開催された。セミナーは 2 部構成で行われ、前段はエムズデーリィ･ラボ　代表の三好志朗先生が「乳房炎コントロールのためのネクストステップ」、後段はミウラ･デーリィ･クリニック　代表の三浦道三郎先生が、「移行期の代謝障害　肝機能を中心に考える」と題しそれぞれ講演を行った。

三好先生の講演では乳房炎コントロールのためのバルク乳モニタリングの重要性や、過去の乳房炎に関する記録の重要性などが指摘された。また、乳房炎治療に関しては原因菌を特定し，原因菌にあった治療法を選択することが重要だとのことであった。三浦先生の講演では分娩前後の肝機能について，様々なデータを元に科学的な説明がなされた。乳牛の疾病の 70%は移行期と呼ばれる分娩前後に集中する。この時期をスムーズに乗り切り、乳生産にむかうための栄養管理法などにつて説明された。

獣医師 24 名の参加に加え酪農家 7 名を含めた獣医師以外の方も 17 名の参加があった。周産期疾病と乳房炎のコントロールは酪農業界で最も関心の高い問題であり、産業動物獣医師にとって顧客である酪農家とともに情報を共有することができた良い機会となった。ここ数年の産業動物部会のセミナーは，部会員である獣医師だけではなく、生産者である畜産農家を含めた畜産業全体に貢献する情報の提供を目的として開催されている。

講演される三好志朗先生

講演される三浦道三郎先生

◇平成 30 年度 小動物臨床部会 第 3 回講習会の開催

平成 31 年 1 月 20 日(日)、新潟市の万代シルバーホテルにて平成 30 年度小動物臨床部会第 3 回講習会が開催されました。

松谷正巳副部会長の司会進行で、長谷川眞部会長、続いて宮川保会長理事の挨拶のあと講演に入りました。

講師は、公益財団法人日本小動物医療センター 消化器科科長 中島亘先生をお招きし、「犬と猫の慢性下痢 Update 2019」と題してご講演をいただきました。

我々が診察の中でよく遭遇し、また悩みどころの多い慢性下痢について、診断アプローチ方やそれぞれの病気に対する最新の治療法を非常にわかりやすくご解説いただきました。疫学的な知見や実際の症例を交えたお話しも多く、限られた時間ではありましたが、先生のお話しが終わってしまうのが残念に思うほど素晴らしいご講演でした。

当日新潟市は小雨の降る中、参加申込者は 72 名、当日参加者は 63 名と多くの先生方の参加をいただき、先生方の関心の高さを感じさせる講習会でした。

講演される中島 亘 先生

受講の様子

◇平成 30 年度 小動物臨床部会 動物看護師セミナーの開催

平成 31 年 1 月 20 日(日)新潟市の万代シルバーホテルにて平成 30 年度動物看護師セミナーを開催しました。

鈴木正芳副部会長の挨拶の後、鱒正治委員の司会進行で講演に入りました。

講演は第 1 部が、すみれ犬猫クリニックの玉木春紫先生による犬と猫のリハビリテーション～動物看護師が行うリハビリテーションのポイント～、第 2 部が新潟動物画像診断センターの坂大智洋先生による放射線教育訓練 レントゲン機器の取り扱いと撮影方法 でした。

参加登録者 70 名、当日参加者は 71 名で、大寒の雨の降る足元の悪い日でしたが、ほぼ満席からの講演開始で、みなさんが熱心に講演を聴いていました。

今後とも小動物臨床部会の事業にご協力をよろしくお願いいたします。

講演される玉木春紫先生

講演される坂大智洋先生